

# カナダ経済の特徴と現況

日本経済新聞社記者

岡崎亘博

さらに順調な伸びをみせ、第一四半期は年率で実質一一・一%を記録、回復軌道を進んでいる。

また鉱工業生産指数（一九七一年）一〇〇も七四年の一八・九から七五年は一一三・二にまで落ち込んだが、今年にはいり順調に伸びており、三月は一八・一、四月は一九・一と、七四年の平均水準を上回った。

一方、貿易収支をみてみると、七五年は輸出が四百億三千三百万ドルだったのに対し、輸入が四百五十四億四百万ドルとなり、前年の二十億五千五百万ドルの赤字から五十三億七千百万ドルにまで広がった。今年の第一四半期も、年率換算で輸出四百三十一億四千万ドル、輸入四百九十二億一千六百万ドルで、差引き六十億七千六百万ドルの赤字となつており、不振を続けている。

もう一つ、回復軌道に乗った経済にブレーキをかけているものに、インフレの心配がある。消費者物価の動きをみてみると、七四年の一〇・九%の上昇に続き七五年も一〇・八%と高物価が続いたが並ぶ高い生活水準を誇つており、近代産業国家として未知の潜在力を持つ国といえよう。

このカナダも、世界不況の波を受けて七四年の第二四半期にはマイナス成長に転じ、同年の国民総生産は千四百四十六億一千六百万ドルとなり、成長率も実質で一・八%にとどまつた。七五年も引き続き経済は低迷したが、第一四半期を底にようやく回復に転じ、その後もゆるやかな上昇を続けたが、結局、国民総生産で千六百十一億三千二百万ドル、実質成長率は〇・六%に終つた。今年に入つて

さらに順調な伸びをみせ、第一四半期は年率で実質一一・一%を記録、回復軌道を進んでいる。

まず第一にあげられるのはその豊富な天然資源の存在だろう。石油、天然ガス、石炭といったエネルギー資源、ニッケル、亜鉛、銀、アスベリストなどをはじめとする豊かな鉱物資源に支えられ、鉱業生産は米ソに次ぐ第三位の地位にある。また膨大な森林資源、豊富な水力に加え、マニトバ、サスカチュワン、アルバータの平原三州は肥沃な土地に恵まれ、小麦を中心とする農産物の生産で、世界の穀倉地帯の一つに数えられている。こうした天然資源はカナダの工業化を支えているだけでなく、重要な輸出品目としてもカナダの経済に大きく貢献している。

次にあげられるのは、先の豊富な資源を、いわば「担保」とした、多量の外資の流入だろう。そしてこれはカナダ経済のこれまでの発展の大きな要因となつてきし、これからも主要な役割を担うものである。この外資が一方ではカナダ経済を支えづけるものとなつていている。

第三にあげなければならないのは、象とネズミに例えられるように、経済大国アメリカと隣接していることである。さらにカナダの人口のほとんどが米国との国境線から北にわずか三百二十〜四百八十キロの間に住んでおり、東西六千四百キロの国境線沿いに生産ベルト地帯を形成していることである。これはカナダ国内の東西の交流よりも国境の南の米国との結びつきを大きくなる結果となり、貿易をはじめ資本の流入など大きくアメリカの影響を受ける理由となっている。し

かし、このことが逆に最近のカナディア次にこうしたカナダの経済のパックボ

カナダ経済の特徴

カナダの人口のほとんどが米国との国境線から北にわずか三百二十〜四百八十キロの間に住んでおり、東西六千四百キロの国境線沿いに生産ベルト地帯を形成していることである。これはカナダ国内の東西の交流よりも国境の南の米国との結びつきを大きくなる結果となり、貿易をはじめ資本の流入など大きくアメリカの影響を受ける理由となっている。し

カナダ統計局の資料によると、七二年末のカナダの金融業を除く外資企業（議決権付き株式の五〇%以上保有）の資産額は五百六十三億五千百万ドルに達し、これは全産業の三五%を占めるに至つてい

ン・アイデンティティ確立を求める動

きの源流となつておらず、経済ナショナリズムとなつて重要なカナダの経済の方向となつてきている。EC（歐州共同体）や日本への積極的な接近、外資審査法の制定もその一つといえるだろう。

第四番目には人口の少いことから国内市場での商品の流通が制限され、輸出関連産業以外の第二次産業の量産が行えず、コストが高くなり、競争力を弱める結果となつていている。またこうしたことからいきおい輸出の経済に占めるウエイトが大きく、付加価値の高い輸出関連産業の育成、輸出振興策がとられるようになつていて。

もう一つあけなければならないのは地域的な経済格差である。大都市であるモントリオールやトロント、バンクーバーなどを擁するケベック州、オンタリオ州、ブリティッシュ・コロンビア州などに人口が集中する傾向にあり、都市では失業率の増加、地方では労働力不足といった現象が現れ、経済発展の阻害要因となつていている。そして低開発地域の産業の振興が大きな政治課題となつていて。

## 大きい外資の比重

先にも触れたように、膨大な外資の流入はカナダの経済を規定する大きな特徴となるが、その現状をもう少し詳しくみてみよう。

カナダ統計局の資料によると、七二年末のカナダの金融業を除く外資企業（議決権付き株式の五〇%以上保有）の資産額は五百六十三億五千百万ドルに達し、これは全産業の三五%を占めるに至つてい